

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371300910
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	守山ケアハートガーデン グループホーム つづみの郷
訪問調査日	平成20年8月29日
評価確定日	平成20年9月30日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2371300910
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	守山ケアハートガーデン グループホーム つづみの郷
所在地	名古屋市守山区鼓が丘二丁目214番地 (電話) 052-739-1717

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年9月30日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年3月16日
ユニット数	2 ユニット
職員数	21 人
利用定員数計	18 人
常勤	15人, 非常勤 6人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	32,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	330 円
	夕食	480 円	おやつ	110 円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要(平成20年8月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	6名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	72 歳	最高	99 歳
協力医療機関名	旭労災病院・名古屋徳洲会総合病院・愛知クリニック・前川歯科				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

三菱電機ライフサービス株式会社の事業の一つであるホームは、新興住宅の中にあり2階建ての建物である。同区と春日井にもグループホームがあることで、協力体制ができています。また、法人の担当者が毎日ホームを訪問し、入居者、家族、職員の気持ちを大切に、経営とのバランスを取り入れながら運営に関与するなど、バックアップ体制が充実している。入居前には必ずお話し入居を行ない、事前面談とお話し入居で得られた情報で入居判定を行なっている。浴室にリフトが設置してあるので、全介助の入居者でも対応することができる。月に1回ボランティア(ハーモニカ、日本舞踊、整膚、大正琴など)の訪問があり、入居者の楽しみになっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の改善点について法人の担当者、管理者、職員で話し合い取り組んだ。地域密着型サービスとしての理念において、運営理念にサブタイトルとして「地域住民の方々が開かれたホーム」を目指すことなど2項目が加えられた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	法人の担当者から意義について説明があり、全職員が取り組んだ。自己評価を客観的に見つめ直すよい機会として捉え、そこで出た新たな課題を確認することができた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年から保育園の園長が委員に加わり、家族代表、自治会長、民生委員、法人の担当者、管理者の参加のもと3カ月に1回開催している。会議では事業所の状況や活動などの報告を行ない、メンバーからは意見や助言、情報を得て双方向的な会議となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時に職員や法人の担当者はコミュニケーションを図り、何でも言える雰囲気づくりを心がけている。苦情相談窓口や外部の相談窓口については、入居時に説明を行なっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の夏祭りや福祉推進協議会の高齢者とこどもの触れ合い広場などに参加し、積極的に交流を図っている。散歩時には地域の人との挨拶を心がけ、近くの喫茶店を利用することで、馴染みの関係になっている。クリスマス会には地域の方にも声をかけ、子どもなど多くの方の参加があり、入居者と一緒に楽しんだ。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念に「笑顔が絶えない明るいホーム」「地域住民の方々に開かれたホーム」を目指す2項目を加え、入居者、家族、地域住民、職員の笑顔を生み出すコミュニケーションを大切に、常に思いやりのある対応を心がけている。地域の中で関わりを大切に、その人らしく笑顔で暮らし続けることを支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のカンファレンスで理念について話し合いの機会を持ち、職員の意識の向上に努めている。「笑顔で！」をキーワードに職員はいつも明るく、思いやりを持って支援するよう心がけている。理念を各ユニットの入口と共同生活の場に掲示し、常に意識できるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し夏祭りに参加したり、ゴミ当番なども引き受けている。「こども110番」の指定を受け、近隣の保育園や中学校（職場体験、音楽部発表会）などと交流し、子どもとの触れ合いを楽しんでいる。ホームのイベントに地域の方にも参加してもらいたいとの思いで、チラシを手配りして交流に努めている。散歩時には挨拶を心がけ、地域の喫茶店や買い物をする中で、馴染みの関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人の担当者は評価の意義やねらいを口頭や文書で伝え、自己評価を客観的に見つめ直すよい機会として全職員が取り組んだ。前回の評価課題については話し合い、理念にサブタイトルとして「地域住民の方々に開かれたホーム」を加え、気軽に立ち寄ってもらえるホームを目指している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族代表、自治会長、民生委員、保育園園長、法人の担当者、管理者の参加で3カ月に1回開催している。会議では状況報告、活動報告、外部評価結果など報告し、メンバーからはいろいろな意見や助言、情報など得て、より質の高いサービスを目指している。会議議事録を家族に配布し、職員には会議で報告し情報を共有している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>法人の中に専門の担当者を設置し、市町村担当者への報告や連絡、相談を行なっている。提出書類などは郵送ではなく、持参し情報を収集するよう心がけている。地域包括支援センターが実施する「認知症の家族教室」に管理者が講師として携わっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている</p>	<p>毎月行事での入居者の様子や写真、お知らせ（職員の異動、行事予定など）を掲載した「つづみの郷・つづみの丘だより」を家族に送付している。家族の来訪時には入居者の健康状態や暮らしぶりを報告している。緊急時や重要事項がある時はその都度電話で連絡している。金銭管理については領収書、出納帳をコピーし月末に家族に渡している。</p>		<p>毎月たよりを配布しているが、合同のため掲載される内容に限りがあり、入居者個々の暮らしぶりについてはなかなか伝わりにくい。個別にメッセージを書いたり、写真を多くするなどして、訪問できない家族に対しても、入居者の様子がよく分かるように工夫されることを期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会は無いが苦情への対応や相談窓口については、入居時に説明を行なっている。家族の来訪時に職員や法人担当者は何でも話しやすいような雰囲気づくりを心がけている。苦情処理対応マニュアルを整備し、職員に周知徹底するよう努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者はお互い助け合いながら楽しく仕事ができ、働きやすい職場づくりに努めている。また、法人の担当者は頻りにホームを訪れ、管理者や職員が話しやすい環境づくりに努め、離職を最小限に抑えるよう努力している。新人職員はしばらくリーダーに付き添い、入居者に不安を与えないよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営会社の東京本社に現場育成フォローアップ専門部ができ、リーダー格研修が中心に行なわれている。11月から内部研修としてスタッフ研修を1.5カ月に1回全職員が参加し、スキルアップできるよう計画している。外部研修の情報を掲示し、積極的に参加できるようにしている。研修会に参加した後は報告書を記入し、必要に応じて会議で報告している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県、名古屋市認知症グループホーム協議会と守山区の居宅連絡協議会に加入し、情報交換を行なっている。地域の福祉推進協議会主催の高齢者と未就園児を対象にした交流会に参加し、近隣のグループホームとの交流に繋がっている。職員は他の施設が開催するセミナーに参加する機会があり、そこで働いている職員と交流することができた。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の家族から相談を受けたら、まず本人と家族にホームを見学に来てもらい、入居者と話をしたりして雰囲気を見てもらう。その後、事前面談で自宅を訪問し「センター方式家族版」でアセスメントを行ない、3泊4日のお試し入居で徐々に馴染んでもらうよう支援している。また、落ち着くまでは家族の協力を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作り、食器洗い、掃除、洗濯物干しなど職員と一緒にしている。訪問時にも昼食の稲荷寿司を皆で作って配膳している姿がうかがえた。人生の先輩として冠婚葬祭や料理の味付けなど教えてもらい、相談事でアドバイスをもらうなど、共に支え合う関係を大切にしている。一緒に生活する中で職員は入居者から「大変だね」「えらいなあ」といたわりの言葉をかけてもらうことがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりにおいて職員は入居者の話に傾聴するよう心がけている。ゆっくり話をする中で一人ひとりの希望や意向などを聞き取り把握に努めている。把握困難な入居者に対しては日頃の行動や表情から汲み取ったり、家族から情報を得るなど、いろいろと確かめながら支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員は入居者の日々の体調の変化を見逃さず、申し送り書に記入をすることで情報を共有している。月に1回のカンファレンスにて、どうすればよくなるのか話し合い、どうすればさらに良くなるか、家族訪問時の何気なく話をされている会話の中で問題点を受け止め家族の意向、入居者の立場に合ったケアを常に考えた介護計画に活かし作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状態に変化が生じた場合は、その都度ミニカンファレンスを開き現状に即した計画に変更している。施設長は個別担当者会議を時間が許すなら常時行いたいと検討している。見直しは長期目標6カ月で実施し、入院された場合には退院後1カ月以内に介護計画の見直しを行っている。家族には、電話、口頭にて報告を行ない安心してもらえるよう心がけている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>1~2カ月に1回のペースで訪問理美容をお願いしている。入居者によっては業者送迎にて美容院でカットすることで気分転換に繋げている。週2回の訪問マッサージを利用している方もいる。緊急対応として家族の方が困っている時に3週間程入居の受け入れをした事例もある。家族の希望で通院介助、入居者の希望で買い物と柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>毎週1回、かかりつけ医による往診と月に2回地域の認知症専門医の往診があり、往診時には職員が日々の体調、症状について説明をすることで適切な指示や助言を受けている。また、かかりつけ医とは常時連絡可能な関係ができていて、職員の安心となっている。家族が通院介助の時には情報を提供し、受診後は受診内容の報告を受け記録として記載している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>早期より重度化や終末期に対応できる状況について入居者家族とケアについての話し合いはしている。看取りに近い介護支援の経験もしており、重度化に対応できる経験はつんでいる。状態の変化によっては特別養護老人ホームや医療関係への支援に繋げている。11月から訪問看護ステーションと契約することにより、医療連携体制を取ることを予定している。</p>		<p>ホームとして重度化や看取りに関する指針が文書化されていない。重度化や看取りの指針を作成し、入居者、家族、かかりつけ医、職員で話し合いされることを期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーに関しての社内研修に参加している。個人情報使用承諾書には使用目的、使用する期間が明記されホーム便りに掲載する写真も同意を頂いている。居室に入室する時には必ずノックをするか声かけをしている。些細な記録もシュレッダーにかけ破棄し、カンファレンス時に入居者の記録を記載する時はイニシャルにて情報の漏洩の防止に繋げている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気持ちを尊重し、どのように過ごしたいか話し合いながら支援している。訪問時、新聞を読んでいる方、ちぎり絵をしている方、うたた寝をしている方など思い思いに過ごされていた。行事などの参加の声かけはするが、強制はしないよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	庭の畑で収穫したきゅうりが食卓に並び、入居者、職員の話題の一つになっている。管理栄養士が作成した献立に基づいた食材を利用している。週1回自由食の日があり、入居者の希望を取り入れたメニューになっている。食事は入居者、職員が食卓を囲み、身近な話題で会話を楽しんでいる。食後の片付けは習慣化している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間をかけてゆっくり入浴を楽しみたい入居者には数分おきに安否確認をしながら入浴支援をしている。全介助の方には入浴リフトを利用することで対応ができる支援に配慮している。季節感を菖蒲湯、柚子湯で感じてもらい、入浴を拒む方には時間を置いて再度の声かけて入浴を勧めている。入浴の順番が不公平にならないよう記録として残している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴の中から職員は特技、趣味を把握しており、毎日の体操では、入居者指導による体操が始まり職員も一緒に声を出し体をほぐしている。縫い物の趣味のある方は針仕事をしたり、入居者の大好きなカラオケに出かけ歌を楽しんだり、近隣の喫茶店でモーニング、大型スーパーへの買い物、季節の貼り絵作りと多彩である。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝、夕涼しい時間帯を考慮して車椅子の方も一緒に散歩に出かけ、地域の方と出合った時には挨拶を交わし小さなふれあいの場となる。近隣の寿司屋、スーパーへの食材の買出しなど職員と一緒に出かけ支払いは職員が支援することで各自が行っている。ドライブも入居者の楽しみの一つである。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な暮らしの支援のため、玄関は日中開放し夜間のみ防犯のため施錠している。人感センサーを設置し人の出入りが音で分かるようになっている。対面式台所から死角になる場所の確認ができるように、洗面台に大きな鏡を取り付け、入居者の動きを確認できるようになっている。外出に気がついた時はさり気なく声かけをし一緒に出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設長が防火管理者の資格を取得しており、年2回守山消防署指導のもと通報、避難、消火訓練を入居者と職員と一緒に実施している。夜間を想定しての訓練も行われており、入居者の部屋には懐中電燈が置いてある。職員は定期的に救急救命の講習会を受講し、運営推進会議のメンバーである民生委員を通じて地域住民の参加が得られるように働きかけをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成し、食事摂取量、水分摂取量を記録として残し、月1回の体重測定を行うことでカロリーコントロールの参考にしている。食事摂取量不足の場合は医師に相談のうえ、エンシュア（総合栄養剤）で対応することもある。水分摂取に関しては、1日の摂取量の目標を考慮して、食事の時に汁物をつけることにより達成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝食後入居者、職員と一緒に居室掃除を行なっている。フロア内の掃除も行き届いており気持ちよく過ごすことができる。壁には入居者の習字、やさしい色使いのぬり絵、写経の作品が展示してあり、写経を読むことで入居者の気持ちの落ち着きのよりどころになっている。今は秋のお月見のちぎり絵を作成中である。ミニ庭園は車椅子の通行も可能になっており、収穫した野菜が食卓に並んでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはたっぷり収納できるクローゼットがあり、荷物の整理整頓に役立っている。入居者の馴染みのタンス、時計、テレビ、犬の置物、仏壇などが使いやすいように配置され居心地のよい居室となっている。入居者より、エアコン室外機の音が大きく安眠できないと相談があり、室外機を移設することで問題解決になった。居室で自分の好きな音楽を楽しんでいる方もいる。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。